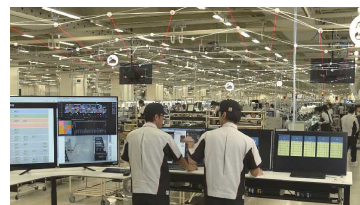


未来技術等の活用事例

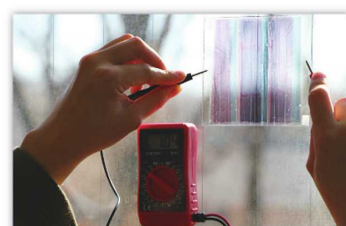
Society5.0の実現に向けては、AIやIoT、ロボット等の未来技術やデジタル技術の導入・利活用が重要となりますが、本県においても、未来技術等を活用した先駆的な取組が始まっています。

未来技術の活用と次世代産業の創出に向けた取組

- 富士通株式会社小山工場内の富士通テレコムネットワークス株式会社では、製造ラインにカメラやセンサー等を設置し、IoTでデータを可視化するとともに、AI分析により生産状況の把握やシミュレーションに活用するなど、生産現場の高度化を実現しています。
- とちぎ次世代産業創出・育成コンソーシアムでは、大学等の技術シーズを活用してベンチャー企業を創出・育成する取組を行っており、これまでにない新たな技術や製品が生み出されています。



富士通テレコムネットワークス株



塗布型太陽電池（技術シーズ）

サービス産業や観光誘客におけるデジタル技術の活用

- 株式会社ジェネックスでは、デジタル技術を活用したセルフオーダーシステムを開発し、県内の飲食店やホテル等に導入しています。導入した飲食店等では、人手不足の解消や業務の効率化につながっています。
- 県では、国内外からの観光誘客を促進するため、SNS等を活用したデジタルマーケティングを推進しており、本県をPRする魅力的な動画の配信とアクセスデータ分析により、ターゲットに応じた効率的・効果的な情報発信に取り組んでいます。



注文から会計までデジタル対応の飲食店



デジタルマーケティングによる配信動画

スマートファクトリー化に向けた取組

- 富士フィルムテクノプロダクツ株式会社佐野工場では、IoT活用による熟練技術のデータ化やAIによる検査工程の自動化をするとともに、作業データをプラットフォームに集約して活用するスマートファクトリー化を推進しています。
- 株式会社深井製作所では、IoTを活用した生産状況の見える化を進めており、リアルタイムに現場の状況をモニタリングしています。それにより、機械停止時間の削減やトラブルの早期対応といった生産性向上につながっています。



富士フィルムテクノプロダクツ株佐野工場



株深井製作所